



# 積石塚・渡来人研究会

## 第7回 研究例会

積石塚・渡来人研究会では、今年度の共同研究テーマを「渡来人と諸技術・開発」とし、来年2月開催予定の総会・記念講演会に向けて取り組んでいます。今回の例会は、その「中間報告」となります。

**日時** 令和元(2019)年 7月 27日(土) 13:00～16:30 ※申し込み不要

**会場** 山梨県立図書館 交流ルーム 101 <資料代:500円>

**報告1** 笠原みゆき氏 (山梨県埋蔵文化財センター)

### 「須恵器 –新たな器の出現–」

\* 須恵器という器が、どのようにして大陸から伝わり、日本で作られてきたか。その技術や各期・各地の中心的な窯跡を追いながら、古代甲斐での須恵器の出土状況を見直します。

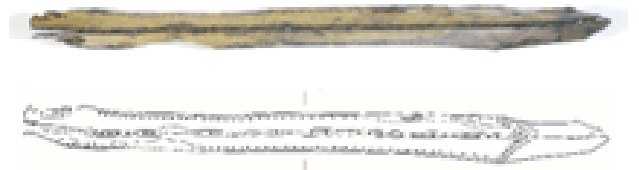


甲府市東山南遺跡出土の初期須恵器  
(山梨県立考古博物館提供)

**報告2** 北澤宏明氏 (山梨県埋蔵文化財センター)

### 「金属製品 –平林2号墳の副葬品から–」

\* 笛吹市に所在する平林2号墳は、甲府盆地の中で後期・終末期を代表する古墳の一つです。今回新たに確認された冠飾など、副葬された金属製品から古墳の性格について考えます。



笛吹市平林2号墳出土の金銅製冠飾  
(山梨県立考古博物館提供)

**報告3** 末木 健氏 (山梨県考古学協会会長)

### 「機織り –古代甲斐の紡織–」

\* 甲府市塩部遺跡出土の大量の木製品の中に、機織具部材とみられるものが検出されました。地機・高機による布生産など古代甲斐の紡織について考える足がかりにしたいと思います。



甲府市塩部遺跡出土の木製品 (機織具)  
(甲府市教育委員会蔵・昭和測量(株)提供)

「積石塚・渡来人研究会」とは・・・

古墳時代から律令制の時代にかけて朝鮮半島などから日本列島に移住・定住した人びとの足跡とその意義を検証するため、考古学・文献史学などを軸とした総合的研究を行う新しい研究会です。講演会・研究例会・見学会などの催しにどなたでも参加できます。ふるってご参加ください。

<連絡・問合せ先> 積石塚・渡来人研究会 事務局 080-6724-7311 (原)